

日本プロテオーム学会 (2018 年～2020 年理事)

2018 年 第二回理事会 資料(議事録)

開催日時: 2018 年 5 月 16 日(水) 11:50～12:50

会場: ホテル阪急エキスポパーク・本館3F「もず・ほと」

出席者(50 音順, 敬称略): 足立淳、荒木令江、石濱泰、大槻純男、奥田修二郎、植田幸嗣、梶裕之、川島祐介、河野信、川村猛、紀藤圭治、木村弥生、久保田一石、小迫英尊、小寺義男、小松節子、近藤格、榊原陽一、杉山直幸、曾川一幸、堂前直、肥後大輔、本田一文、松本雅記

欠席者(50 音順, 敬称略): 小田吉哉、高尾敏文

【報告事項】

1. 会員状況(松本)

- (1) 会員数 (2018 年 5 月 10 日現在)について報告がなされた(詳細は下表を参照)。
- (2) 会員数集計の際の年会未払者の取り扱い、および年会未納者の退会手続きの規定について問題提起がなされた。

種別	会員数
個人会員	個人会員 608 名 (個人会員:464 名 ^{*1} , 個人会員(法人登録):144 名) ※1 2015-2017 年度会費未払い者 341 名を除く (昨年:614 名、一昨年:631 名、本年度新規入会者: 11 名)
学生会員	269 名(181 名 ^{*2}) ※2 メール不達者除外 (昨年:207 名、一昨年:204 名、本年度新規入会者:9 名)
法人会員	10 社 (昨年 20 社、一昨年 10 社)
合計	877 名+10 社 (昨年:906 名+20 社)

2. MSP2018 大会報告(石濱)

- (1) MSP2018 で収益が出た場合は、参加者の会員数に応じて JPrOS と MSSJ で分配することが報告された。現時点での参加者数比は JPrOS と MSSJ で約 2:3 であることも、あわせて報告された。

3. JPrOS2019 大会準備状況報告(榊原)(資料1参照)

- (1) 開催場所・期間およびシンポジウム開催時間枠など開催概要について報告された。
- (2) プログラムは大槻理事を中心に進められることが報告され、各理事にも協力依頼がなされた。
- (3) 電気泳動学会との合同開催(第一回理事会承認)については、電気泳動学会理事会での承認を経て正式決定されることが報告された。

4. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(梶)

- (1) 学会賞は1名の推薦、奨励賞は2名の推薦があり、学会賞選考委員会委員長である梶理事と理事による選挙で選ばれた審査員4名の計5名による審査の結果、以下のように決まったことが報告された。
 - ① 学会賞: 該当者なし
 - ② 奨励賞: 武森信暁会員(愛媛大学)
「コムギ無細胞合成法を利用した標準ペプチド多重共発現系の開発と定量プロテオミクスへの応用」

5. KHUPO との交換講演 (石濱)

- (1) 2010 年から続いている交換講演について、今年の概要(3月に石濱ご KHUPO で講演、MSP2018 で KHUPO 会長の Je-yoel Cho が講演)について報告された。
- (2) 次回以降は双方の経済的支援をよりシンプル(参加費を無料にし、航空券・宿泊費などはそれぞれが自己負担)にする方向で検討していることが報告された。

6. HUPO, AOHUPO 活動報告 (石濱)

- (1) 山田哲司先生がアジアエリア一般枠で、小松節子先生が女性・若手・非注目分野の枠で HUPO 理事となっており、本年の改選に伴い継続意思の確認後、JPrOS として理事候補の推薦したことが報告された。
- (2) HUPO world congress が 9 月 30 日から 10 月 3 日に米国の Orlando で開催されるが、トラベルアワードを出すことが報告された(学会通信 294 号参照)。
- (3) AOHUPO Congress (2 年ごとに開催)、次回 10 回目大会の開催場所は未定であることが報告された。また今回 9 回目の大会ではトラベルアワードを JPrOS から 1 名、BGI(Beijing Genomics Institute)から 8 名(45 万円が拠出)に出されたことも、合わせて報告された(閉会式に授賞式を開催)。

7. 納税について (小寺)

- (1) 昨年末の前理事会で、納税に向けて手続きを進めることとなったことを受けて、会計事務所に処理を委託し(委託費 45 万円/年)、約 39 万円を納税することとなったことが報告された。大会と学会の収支を会計事務所に報告することで比較的少ない労力で納税額と必要な情報をまとめてもらえること、手続きなどは順次今期理事に引き継いでいくことが、あわせて報告された。

8. HUPO イニシアチブ活動の報告(C-HPP)(石濱, 川村)

- (1) Dublin での 2017 HUPO のプレミーティングとポストミーティングとして開催された C-HPP のミーティングについて報告された。
 - ① X 染色体は昨年より石濱泰が代表、山田哲司先生が副代表で進めており、jPOST の活動の一環として実施することなど現状を報告した。
 - ② 3 番染色体は川村猛先生が昨年より代表となり進めており、jPOST と連携して行うことや機能未知タンパク質の解析を行うこととなった。

9. 学会ウェブページの整備および Web 会議システムについて(松本)(資料2参照)

- (1) これまでは外部委託によりウェブページの更新を行っていたが、タイムリーな管理をするために現在は事務局での充進をしていることが報告された。また英語版を大幅に充進したことに加え、今後は抜本的な改善も計画していることがあわせて報告された。
- (2) 会員管理システムの不具合(会員一斉メール送信の際の不達メールの問題など)は、今後随時解消していく予定でいることが報告された。
- (3) Web 会議システム(WebEX)は契約条件を見直し、3年契約・1ライセンスでこれまでの契約料の低減(約1/3)が可能になったことが報告された(理事会の任期ごとに3年契約の更新が可能)。
- (4) 事務局業務を庶務副担当理事(紀藤、足立)に分担して進めていることが報告された。

10. JPrOS イニシアチブについて

- (1) データベースイニシアチブについて(石濱)
 - ① 今年 jPOST が充進の時期にあたり、新規プロジェクト(5 年間)として採択されたことが報告された(JST ライフサイエンスデータベース統合推進事業(統合化推進プログラム)において研究開発課題名「プロテオームデータベースの機能深化と連携基盤強化」として採択)。デポジットとデータベースの両方を軸として進めていくこと、本理事会も有識者メンバーとなっていて、MSP2018 でも JPrOS のブースのなかで jPOST の宣伝活動を行っていることについて

も、あわせて報告された。

(2) 血清・血漿プロテオームイニシアチブ (小寺)

- ① 昨年度 3 月末で 2 年間のプロジェクトが終了したことが報告された (AMED 委託事業であるオーダーメイド医療の実現プログラムにおける研究開発課題「バイオバンクの構築と臨床情報データベース化」の分担研究開発「血清・血漿試料の品質評価マーカーの開発と測定法の確立」)。今年度はプロジェクトの継続を依頼されたが研究費の非常に少額であることなどからプロジェクトとしては中断することとしたが、学会 HP にはデータを公開していくことが、あわせて報告された。

11. 各担当理事からの活動報告

(1) 学会誌編集活動(本田)

- ① J-STAGE に登録が完了し、5 月 21 日に公開される予定であることが報告された。
 ② 学会誌は本年 2 巻発行の予定としていることが報告された (2018 年度予算案として約 30 万円を計上)。1 巻目は執筆者 4 名の原稿が入校済みであるが、2 巻目は執筆者 1 名が決まっているのみであり、若手の研究者など幅広い執筆者の推薦が依頼された。また年間発刊数など学会誌の位置づけについても議論がなされ、今後の継続課題となった。

(2) 学術企画活動(植田)(資料3参照)

- ① 今年の第 41 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2018) に植田幸嗣理事と荒木令江理事をオーガナイザーとしたワークショップ企画 (11 月 28 日) が採択されたことが報告された (ワークショップタイトル「プロテオゲノミクスが解き明かす新たな分子ネットワークと次世代創薬研究への応用」)。当該年会を JPrOS の後援とするには 10 万円を拠出する必要があるが、今回は見送られた。

(3) 教育活動(曾川)

- ① 第 7 回トレーニングコース(大阪開催)について、エクソソーム解析を行ったため 10 名限定で実施したことが、足立理事から報告された。
 ② 第 8 回トレーニングコース(神奈川開催)(資料4参照)について、麻布大学(曾川理事担当)と北里大学(小寺理事担当)にて定員 15 名で開催されることが報告された。
 ③ 第 9 回トレーニングコースについては、徳島(小迫理事担当)で開催予定であることが報告された(日時など詳細は未定)。
 ④ 参加費の根拠について荒木理事から質問があった。他の学会のトレーニングコースとそれほど違いはないこと、これまでの開催では集まった参加費が余ることはほとんどないこと、補助業務を担当する学生にアルバイト費を出せないこともあることなどから、これまで同様に本参加費で実施することとなった。

(4) 国際活動(小松/近藤)

- ① Expert review proteomics でミーティングレポートとして MSP2018 の内容を報告する予定であることが、近藤理事より報告された。
 ② 小松理事から、AOAPO (Asia Oceania Agricultural Proteomics Organization) の活動を今後は HUPO や AOHUPO の開催時期・場所と調整して決めていきたい旨報告があった。また 2018 年の HUPO congress では 2 つのセッションを農学関連として開催する予定であることも、あわせて報告された。

(5) 広報活動(奥田/河野)

- ① J-STAGE に関連して学会誌オープンアクセス化の際のコンサルティング募集について川野理事から報告があった。応募し採択されれば中間報告などの義務は生じるが、オープンアクセス化の際の投稿費用・著作権など種々の規定について個別に相談することが可能となる。今後、継続的に議論していくこととなった。
 ② 関連事項として、データ登録を主たる目的とした雑誌の刊行を考えていることが、石濱会長より報告された。jPOST へのレポジットの際にメタデータが欠けていることが散見されるが、本雑

誌への投稿を義務化することで本問題も解決できるメリットがある。

12. 2017 年度主催・共催・後援・協賛実績（石濱）

- (1) 第 15 回北里疾患プロテオーム研究会（日本プロテオーム学会共催，北里大学相模原キャンパス）を共催し、1セッションが共催セッションとして開催されたことが報告された。
- (2) 共催・後援・協賛は会長一任事項のため、希望があれば石濱会長まで連絡をもらえるよう依頼があった。

【審議事項】

1. 2017 年度収支決算報告（榊原）

- (1) 資料にもとづき 2017 年度会計報告がなされた（資料【平成 29 年度（2017 年度）会計報告】理事会を参照）。報告内容の詳細は下記を参照。
 - ① 今年度から納税することを目的として、会計事務所に会計業務の一部を委託した。大会開催収支を学会の会計収支に含んで納税額を決めるほうが適切との会計事務所からの指摘を受け、昨年度までとは異なり大会開催の収入と経費をそれぞれ学会の収入と支出に計上した。
 - ② 収入の項目のうち、個人会員の会費には大会参加費のなかの 2000 円は含まれておらず、大会非参加者の会員から支払われた年会費に相当する。
 - ③ 大会開催収入のうち寄付金は、別項目として計上した。
 - ④ 昨年度と異なる支出の項目は、会計事務所への委託費と税金の二項目になる。他は例年と同程度の額となった。
 - ⑤ 2017 年度会計報告は二名の監事による確認を受け、会計監査報告書にはすでに署名・押印済みであることが報告された。
- (2) 資料にもとづき 2017 年大会収支の報告がなされた。報告内容の詳細は下記を参照。
 - ① 2017 年大会収支報告書の収入には、会員の年会費と参加費は税金の対象にはならないため（小寺）、参加費を会員と非会員に分けて記載した。
 - ② 2017 年大会収支報告書の支出には、326 名分の年会費相当額と、学会 HP を活用した参加登録システム・要旨登録システム使用料を、大会から学会への支払いとして計上した。

2. 2018 年度事業案及び予算案（木村）

- (1) 下の 2018 年度予算案にもとづき説明がなされた。5 月 17 日の総会にて承認後に決定されることとなる。説明内容の詳細は下記を参照。
 - ① 大会開催収支を学会の会計収支に含むこととなったが、2018 年度は合同開催のため、収入には計上されていない。
 - ② 昨年度の実績にもとづいて収入額および支出額を項目ごとに試算・計上した。
 - ③ 受取寄付金は今年度大会余剰金から学会に入ってくる金額として収入に計上しているが、実際の金額は未定である。
 - ④ 年大会開催経費は AOHUPO 招待講演の謝金として計上した。
 - ⑤ 印刷製本費は学会誌 2 巻分の経費として計上した。
 - ⑥ 学会賞は今年度の賞決定時期が早かったため、既に昨年度予算から支出されているので、今年度予算では計上されていない。

- ⑦ 本予算案に加えて、例年通り大会準備金として 50 万円を計上することが確認された(榊原)。

【平成 30 年度（2018 年度）予算案】

収入	10,184,875 円
《 内訳 》	
2017 年度繰越分	7,684,775 円
受取会費	
(個人会員)	500,000 円
(法人会員)	800,000 円
事業収益	
(大会開催収入)	0 円
(トレーニングコース開催収入)	200,000 円
受取寄付金	1,000,000 円
雑収益	
(利息)	100 円
(雑収益)	0 円
支出	10,184,875 円
《 内訳 》	
事業費	
(年大会開催経費)	150,000 円
(トレーニングコース開催費)	200,000 円
管理費	
(通信運搬費)	15,000 円
(消耗品費)	15,000 円
(印刷製本費)	291,060 円
(委託費)	
— Web 運営維持管理費	750,000 円
— Web 会議システム経費	145,800 円
— 会計事務	450,000 円
(雑費)	
— 学会賞関連	0 円
(その他)	150,000 円
税金	400,000 円
予備費 (2019 年度繰越金)	7,618,015 円

3. 2019 年大会及び 2020 年大会（石濱）

- (1) 2019 年第 17 回大会は宮崎で開催されることとなっており、榊原理事を中心に松本理事と大槻理事の計 3 人体制で準備を進めて行くことが報告された。
- (2) 2020 年第 18 回大会は場所・時期に加えて実行委員が未定である。最初の自薦が求められたが自薦者がなかったため、以下の案が提案され承認された。

- ① 関東または首都圏での開催とし、紀藤理事と堂前理事が中心となり、他の数名も加え計4～5名程度が実行委員のコアメンバーとなって、実行委員長、プログラム担当、会計担当、企業担当、広報担当(要旨およびウェブなど)を分担して進めて行くこと。今回の MSP2018 ではとくに複数人数で各委員が分担して大会準備・運営を行っており、一つの研究室に負担が集中しないといった点でもよくできた仕組みとなっていることが申し添えられた。
- ② 他の実行委員(理事会メンバーが過半数を占めるようにすること)および開催時期と場所の提案が、あわせて依頼された。会場代が抑えられることから可能であれば大学での開催が望ましいこと、またその後の大会運営への引き継ぎを潤滑にするためにも実行委員は幅広い年代から構成される方が望ましいことが申し添えられた。

参考資料

年	開催地/大会長
2003	第1回 つくば/中西洋志
2004	第2回 東京/戸田年総
2005	第3回 横浜/平野 久
2006	第4回 東京/西村俊秀
2007	第5回 東京/磯邊俊明
2008	第6回 大阪/高尾敏文
2009	第7回 東京/前田忠計
2010	第8回 千葉/山田哲司
2011	第9回 新潟/山本 格
2012	第10回 東京/高橋信弘
2013	第11回 (HUPOと合同) 横浜/平野 久
2014	第12回 つくば/成松 久
2015	第13回 熊本/荒木令江
2016	第14回 東京/服部成介
2017	第15回 大阪/朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪/石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎/榊原陽一, 松本雅記, 大槻純男
2020	第18回 未定

4. その他

(1) 会員登録のしくみ(松本、石濱)

現在は会費未納の場合でも3年会は会員リストに含めたままであり、それ以上未納であれば会費未納者リストに入れている。年会費をどこまで遡って支払いを請求するかや退会手続きなどを学会規約にどのように明記するべきかを、具体的文面の案をもとにメール理事会にて審議する予定であることが報告された。